



研究会・研修会等への 報告者・講師の派遣

(平成十三年七月)

平成十三年十二月

- 一、「地域農業振興計画策定セミナー」
主催 十勝農協連・北農中央
会帯広支所
とき 平成13年7月11日
テーマ 実効ある地域農業振興
計画を策定するために
講演者 黒澤 不二男
(当研究所・常務理事)
- 二、「平成13年度全国女性農業経営者会議」

主催 全国女性農業経営者会議・道農政部
とき 平成13年8月29日
テーマ 女性の農業経営参画のあり方
助言者 黒澤 不二男
(当研究所・常務理事)

関連学会・研究会等

○第9回日韓中酪農セミナー
主催 日本、韓国、中華民国の四大学
ところ 江別市 酪農学園大学
とき 10月5日
9:30~16:30
テーマ 「各国酪農事情、インテリジェント牛舎、バイオカスプラント、乳牛自飼養管理システム等」
*参加はオープン

○平成13年度北海道農村研究大会
主催 北海道農村生活研究会
ところ 札幌市 かねてら2・7
とき 11月9日
9:00~17:00

大会テーマ「地域農業の活性化に向けて何が必要か」
基調講演 道農政部次長 麻田信一氏

シンポジウム

第一分科会
「産直・直売活動の可能性」
第二分科会
「地域活性化と女性の役割」
*参加は原則会員、新規入会は年会費一、五〇〇円
(当日参加費用の他
研究会誌、ニュース等)
○日本流通学会第15回全国大会
とき 10月20日(土)~
21日(日)

ところ 札幌学院大学
問い合わせ先

札幌学院大学 日本流通
学会全国大会実行委員会
江別市文京台一

FAX 〇一一三三八八一三三
E-mail: asap@earth.sgu.ac.jp

○平成13年度北海道農業経済学会秋季大会
ところ 網走市 東京農大生物
産業学部

とき 11月9・10日
シンポジウム

9日10:00~17:00
テーマ 「担い手としての農業
法人の可能性」
個別報告 10日9:00~12:00
問い合わせ先 北海道大学
院農学研究科

農業経済学講座 工藤
電話 〇一一七二六二二二
(内線三八八〇)

*参加はオープン



DATA FILE

関連事項/ DATA

(財) 北海道農業開発公社
〒 060-0005
札幌市中央区北 5 条西 6 丁目
☎ 011(271)2231

ホクレン農業協同組合連合会
〒 060-8651
札幌市中央区北 4 条西 1 丁目 3 番地
☎ 011(232)6108 広報宣伝課

北海道大学 農学部
〒 060-8589
札幌市北区北 9 条西 9 丁目
☎ 011(716)2111

北海道農業研究センター
〒 082-0071
河西郡芽室町新生
☎ 0155(62)2721

北海道 農政部
〒 060-0003
札幌市中央区北 3 条西 6 丁目
☎ 011(231)4111

J A 北海道中央会
〒 060-0004
札幌市中央区北 4 条西 1 丁目
☎ 011(232)6405

北海道有機農業協同組合
〒 007-0834
札幌市東区北 34 条東 21 丁目 2 - 23
☎ 011(786)7100

J A めむろ
〒 082-8650
河西郡芽室町東 1 条 2 丁目 17
☎ 0155(62)2311

芽室町
〒 082-8651
河西郡芽室町東 2 条 2 丁目 14
☎ 0155(62)2611

(社) 北海道地域農業研究所
〒 064-0004
札幌市中央区北 4 条西 7 丁目 1
☎ 011(281)2566
E-mail : kaihou@chiikinouken.or.jp

◆◆研修会のご案内◆◆

主催 (社) 北海道地域農業研究所

とき 平成13年12月14日(金)

午後1時30分から

ところ 札幌市 がでるこふ

基調講演 「国際化の新段階と

日本農業の戦略」

講師 今村奈良臣氏

(東京女子大学教授)

パネルディスカッション

「21世紀初頭における北海道

農業の展開方向」(仮題)

コーディネーター

七戸 長生氏 (北海道

地域農業研究所 所長)

パネラー 四名(予定)

編集後記

この秋は何かと憂鬱な事件が多い。世界的にはニューヨークの世界貿易センタービルに対するテロ事件があったし、道内は狂牛病騒ぎに巻き込まれてしまった。どちらも消火活動がうまくいかずくすぶり続けている。

アメリカはテロを戦争と認識して、容疑者の潜伏しているアフガニスタンに対する攻撃準備を急いでいる。ペルシャ湾に空母を集結しミサイルと戦闘機による空爆と、地上軍侵攻の準備も進んでいると報道されている。しかし犯人と目される人物の居場所や、犯行に係わった全体の掌握、まして誰もが納得する証拠も提示されていない。アフガニスタンの多くの住民はこのテロに対して憤りを覚え犠牲者に対して同情していることである。

戦争というのは国と国との武力を用いた暴力行為と定義できるが、これら一般市民を巻き添えにしない戦闘なぞ出来るものだろうか。
同様に狂牛病も、原因と出所が特定できていない。それでも北海道の牛全体が風評被害に曝されている。問題の質が違うが、やりきれない思いは共通している。
爽やかな秋晴れのもとで、来年に希望をつなげる明るいニュースが欲しい。